

[掲載紙] 読売新聞「先読み深読み」

[掲載日] 2012年10月4日

[テーマ] 農産物価格 高温少雨の影響

「暑さ寒さも彼岸まで」と言われるように、秋彼岸以降、厳しい残暑が和らぎ、過ごしやすくなった。振り返れば、猛暑日・真夏日続きで降水量の少ない夏だった。

この高温少雨が、県内農産物の収穫や価格に影響を与えている。キャベツなどは豊作となり、価格が大きく下落している。一方、秋冬農産物の今後の収穫や価格への影響については、懸念する声も聞かれる。

農産物の価格変動は、消費者物価指数の中の生鮮食品に反映される。生鮮食品指数は、消費者物価全体の約4%のウェイトを占めており（総合10000のうち396）、生鮮魚介（ウェイト128）、生鮮野菜（175）、生鮮果物（92）から構成される。県内の生鮮食品指数（前橋市）は、年明けから前年をやや上回っていたが、6月以降、3か月連続で前年を下回った。その結果、消費者には「生鮮食品を安く買えるので、支出が減る」というメリットが生まれるが、一方で、生産者にとっては「農産物の販売収入が減る」というデメリットが生じる。

#### ◆ 消費者物価指数の推移（前橋市）

（前年同月比、%）

	2010年	2011年	2012年 1-3月	4-6月	6月	7月	8月
総合	▲0.8	▲0.3	▲0.0	▲0.1	▲0.5	▲1.1	▲0.9
生鮮食品を 除く総合	▲0.9	▲0.3	▲0.2	▲0.2	▲0.5	▲1.0	▲0.8
生鮮食品	1.9	▲0.1	3.3	1.3	▲2.2	▲3.6	▲3.1

（出所）群馬県・前橋市消費者物価指数。▲はマイナス

景気判断の中で物価動向を点検する際には、総合指数のみならず、生鮮食品を除く総合指数によって基調的な動きを確認する。生鮮食品の価格が天候の影響を受けやすく、振れが大きいためである。需要・所得動向の分析面では、生鮮食品価格の騰落が県内の個人消費や農業所得へ及ぼす影響に留意することも必要だ。

群馬は、コンニャクイモをはじめ、キャベツ、キュウリ、レタス、ホウレンソウなどの農産物について、全国有数の生産拠点である。農家は、担い手や農地が減少する中で、産出額の維持に努めている。先般、嬭恋村のキャベツ畑を訪れ、収穫後の倉庫への迅速な搬送や省力化された予冷施設の整備、積み込みを待つ九州ナンバーの保冷トラックをみて、県内農家の経営努力や県農産物の全国普及を実感した。

◆ 県内の農業の担い手、農地、農業生産額

	2005年	2010年	2011年
農業就業人口 (人)	71,696	57,084	n. a.
耕地面積 (ha)	78,500	75,400	74,500
農業生産額 (億円)	2,200	2,226	2,197

(出所) 群馬県・群馬の農業 (2012年度)

群馬の農業は、日本の消費者になくてはならない存在だ。農家への感謝の気持ちを込めつつ、安定した収穫や価格の確保に向けて、関係者の一層の取り組みを期待する。

〔 日本銀行前橋支店長  
相良 雅幸 〕